

日大の会参加報告

日本大学獣医学科のサークル「こしゃくなげ会」（ゼノアック主催のしゃくなげ会をもじって、小さなしゃくなげ会という意味 大動物志向の学生の集まり）と NDK（農場どないすんねん研究会）共催の『日大の会』が、先日5月21日日本大学湘南校舎で行われました。

テーマは【私も獣医師です。 色々な職場に勤める先輩獣医師の話を聞こう】で、獣医学科の低学年向けに色々な職場の獣医師を招いて講演（ワークショップ形式ではなく、講演形式）が行われました。低学年向けの意図とは異なり高学年生徒の参加が多く見られ、50名程度の参加者が集合していただきました。当日は、新1年生の学内行事体育祭と重なり、新1年生の参加は見込めませんでした。

●プログラムとその概要

12:50 主催者を代表して、日本大学獣医学科の津曲茂久教授によるあいさつで始まりました。NDK 世話人の榎谷が、司会進行を務めました。



講演の概要

①ちば NOSAI 東部家畜診療所の近藤寧子先生

近藤先生は共済歴 30 年の女性ベテラン大動物獣医師。就職当時女性大動物獣医師はまれであり、その道のパイオニア的存在であるといってもよい先生です。お話によると、当初女性獣医師は診療現場よりも血液検査、細菌検査をするものであるとのことで、毎日色々な検査に明け暮れたとのこと。しかし、希望を持って仕事をしていれば、夢はかなえられるもの。ついには診療現場に出ることが可能となりました。仕事をしながらの結婚、出産、子育てとなり、今の産休制度・育児休暇制度などの導入に自ら体験・貢献しました。今現在多くの女性獣医師が千葉 NOSAI に就職しているのは、近藤先生がその道を切り開いてくれたおかげです。

この仕事は男の仕事だ（代わってもらえという意味）、という言葉が今でも鮮明に記憶にあるそうです。

②日本大学獣医衛生学研究室、伊藤 琢也先生

2010 年宮崎で発生した口蹄疫の殺処分現場に参加してのお話。口蹄疫の総括を農水省のホームページの報告書を利用して説明されました。現場に参加しても、写真などの資料を持ち出すことはできず、リアルな写真・記録がなく、公式の資料を利用せざるを得ません。

口蹄疫が発生していない国は世界的には少なく、交通手段が発達した現在ではいつ発生してもおかしくない状況であるとのことで、海外伝染病発生の可能性の認識を新たにしました。口蹄疫は、そもそもは動物の病気ではあるけれど、世界を取り巻く貿易に関する経済の病気である。日本人が何を基準として選んで食品を購入するかが、日本国の農業と食の将来を決めるとのまとめがありました。

③(独)理化学研究所 間 陽子先生

間先生は日本国内でのウイルス研究者の第1人者である。特に動物に関するウイルスを研究する研究者は少なく、その中でも女性はさらに少ない。もしかして先生一人かもしれない。海外のウイルス疾患に始まり、専門的なことを説明されていましたが、わたくしの理解度はいまいち。先生のお話で特に印象に残ったのが、先生の学生時代のでき事。実家は軽種馬牧場を営まれており、お父さんも獣医師とのことです。学生時代に、この牧場に馬のウイルス疾患が侵入し、多くの牝馬が流産をして牧場経営が危機に瀕しました。この時に私はこの病気をなくするウイルス研究者になろうと決意されたそうです。この時から一貫して、ウイルス研究者の道を歩むべく、北海道大学の大学院に進み、牛白血病のウイルスの研究を始めたそうです。夢をあきらめず、常に持ち続けることで、いつかはその夢を実現できるようになるそうです。初心忘るべからず。初志貫徹。自分の子供たちに聞かせたいお話でした。

④神奈川県湘南家畜保健衛生所 宮地 明子先生

現役の子育て世代で、仕事と育児の両立を実践している女性獣医師。神奈川県職員として、動物の色々な検査業務にかかわっています。動物の検査なれども、その向こう側にはいつも人がいる。県職員の仕事内容をご紹介いただき、産休、育児休暇の制度など説明されました。前職は食品衛生検査員として、レストランや小売店の衛生検査を行っていました。興味あるお話は、県職員として子供たちに「食育」の教育をしているところです。出前で、幼稚園や小学校を訪れて、食の教育をしていました。これからの日本の食と農を守るためにも地道な活動をお願いしたいところです。

⑤休憩後 ビデオレター

根室地区 NOSAI に勤める卒業後3年を経た女性獣医師、中野理恵さんからのビデオレター。なぜ大動物臨床家を目指したのか、なぜ東京出身なのに北海道に行ったのか。榎谷のツッコミに答えつつ、学生時代からの夢を実現させたようです。慣れない土地の生活にも慣れ、農家のお嫁さんとの世間話もうまくなり、一步一步確実に進化しているようです。今後の結婚、出産、子育ての職場状況などもお聞きしました。学生に向けての言葉は、学生時代にできることはしておく。根室での臨床実習はいつでもウエルカムだそうです。広くて、多くの自然のある道東へいらっしやい。

⑥質疑応答

印象に残った回答。

子育ては長いように思われているが、長い人生においてはほんの短い出来事。その時には時間を子育てに割いても、何も心配はいらない。夢をあきらめずに、きっと実現できる時



が来る。小さいころは手がかかるが、大きくなると手がかからなくなるがお金がかかる。手がかかる時代の方が楽である。

⑦裏ワークショップ 「うんちくを語る」 NDK 世話人 榎谷 雅文 獣医師

会場を別にし、1時間ほどワークショップを開催する。参加者20名を4班に分けてのグループ討議形式。

4枚の「糞」の写真を見て、何か問題点があるのか、どの糞が一番良いのか、隣の班の糞はなぜいけないのかをグループ討議。その後その説明をしてもらう。その説明にファシリテーターの榎谷がツッコミを入れる形式。糞の固さは何が一番大きく影響する要因なのか。繊維の消化具合、交感神経、腸管の成長、などなど。一つ一つに対して、その理論的解釈を考え、みんなで「考える習慣」をつけるワークショップでした。

⑧懇親会

講師2名を交えての懇親会。わたくしの周りではもっぱら就職のことが話題に。特に北海道に就職するにはどうしたらよいのか？また、「うんちくを語る」の効果が持続しており、飲みながらの糞の話。糞を肴にして飲むのは獣医師くらい？

準備に活躍をいただいた「こしゃくなげ会」の皆様、ありがとうございました。”来年も”の声が上がることを期待します。